

### 第32期 第8回小田原市図書館協議会 概要

- 1 日時 平成30年6月1日(金) 午前10時から12時まで
- 2 場所 小田原市立かもめ図書館2階 研修室
- 3 出席者 宮崎委員長、野口副委員長、益田委員、松本委員、深田委員、勝又委員、大塚委員、石井委員、古矢図書館長、野村副館長、一寸木副館長、内田係長、遠藤係長、石井係長 藤岡主任
- 4 傍聴者 2人
- 5 次第
  - (1) 遠藤文化部副部長あいさつ
  - (2) 報告事項
    - ア 図書館行事の結果について(4月～5月) 【資料1】
    - イ 図書館行事の予定について(6月～8月) 【資料2】
    - ウ 第3回小田原市図書館を使った調べる学習コンクールについて 【資料3】
    - エ 図書館分館の廃止について 【資料4】
    - オ 「白秋童謡100年」事業について 【資料5】
  - (3) 協議事項
    - 小田原市図書館の運営方針(案)等について 【資料6】
- 6 概要

平成30年6月1日付で図書館協議会委員に就任した石井智之氏(小田原市学校図書館協議会会長)を紹介し、文化部副部長挨拶、事務局職員の紹介を行った後、次第に基づき議事に入った。

#### 報告事項

##### ア 図書館行事の結果について(4月～5月)【資料1】

**宮崎委員長** 資料1「図書館行事の結果」に「第2回藤田湘子記念小田原俳句大会」の参加人数が350人とあるが、内容等の説明をお願いしたい。

**図書館長** 藤田湘子記念小田原俳句大会は小田原市民会館で開催されたが、参加人数350人は当日来場された人数である。俳句大会は、小田原市、鷹俳句会、小田原俳句協会による実行委員会形式で事前の俳句募集では約2,800句の応募があり、今回は小・中学生からの応募が非常に多かったことが特徴である。

**宮崎委員長** 参加人数350人は大会当日の来場者数で俳句の応募者数は含まれていないことを理解した。小田原は俳句人気が高く熱心な市民の方が多いと感じている。

##### イ 図書館行事の予定について(6月～8月)【資料2】

**益田委員** 「調べる学習チャレンジ講座」の日程が決まっていたら教えてもらいたい。

**サービス係長** 講座日程は調整中であるが、例年どおり応募は9月からを予定しており、7月と

8月に応募作品を作るための講座を2回予定している。

**宮崎委員長** 8月4日(土)に開催される「絵本へのとびら～初めての読みきかせ～」(小田原市事業協会主催)の行事内容を教えてほしい。

**図書館長** かもめ図書館の窓口業務を委託している小田原市事業協会の主催事業であり、現在企画中であるが、これまでにぬいぐるみのお泊り会や手作りの和綴じの絵本を作る講座を開催してもらっている。

**宮崎委員長** 行事名から低年齢層の幼児等が対象であるか。

**図書館長** 初めての読みきかせということで保護者の方を対象にしていると思う。

**宮崎委員長** 8月4日(土)は「夏のおたのしみ会」と重なっているので上手に連携して多くの方々に参加してもらえるようにしてもらいたい。

**図書館長** 先ほど、宮崎委員長から話のあった「第2回藤田湘子記念小田原俳句大会」の作品集を配布させていただいた。全国から一般の部だけでなく、小・中学生の部にも相当数の応募があった。石井委員にもご協力いただいたと思うが、小田原市内の小・中学校をはじめ、鷹俳句会の会員の方が全国各地で教員をしていて非常に多くの作品をお寄せいただいた。なお、この俳句大会は3年に1回の開催で次回は33年4月の開催を予定している。

### ウ 第3回小田原市図書館を使った調べる学習コンクールについて【資料3】

事務局から資料3に基づいて事業概要を説明した後、質疑応答を行った。

**野口副委員長** 過去2回の課題として応募作品を増やすことがあげられているが、今回は学校に呼びかけるなどの手立てはされているか。

**図書館長** 昨年、学校の先生に相談したところ、「夏休み前に配布する宿題の一覧表に掲載されないと難しい」との話を伺った。教育長からも学校に働きかけると言ってもらったが、宿題の一覧表は学校が独自に作成しているために学校で内容を取捨選択していることや、概ね前年の内容を大きく変えないといった話を伺っている。図書館としては先生方への周知に力を入れていきたい。

**石井委員** 小学校教育研究会の国語部会や総合部会で取り上げてもらうと良いと思う。

**宮崎委員長** ポスターだけでなく、小学校教育研究会等への働きかけをお願いしたい。

### エ 図書館分館の廃止について【資料4】

事務局から資料4に基づいて事業概要を説明した後、質疑応答を行った。

**松本委員** 自動車文庫の位置づけを伺いたい。

**図書館長** 自動車文庫は様々な形態があるが、小田原市は配本所で本を入替え、配本所ごとに貸出を行っている。かつては、自治会などで図書委員を配置して本の貸出を行っていたところもあったが、現在では、支所等の公共施設や学校の放課後児童クラブで行っ

ている。

**松本委員** 実際には何冊ぐらいあるのか。

**図書館長** 施設ごとに異なるが、一番多いのは片浦分館で1度の配本で200冊である。

**文化部副部長** 図書館分館としての位置づけは4箇所であるが、施設規模はそれぞれで棚を設置しているだけのところもある。放課後児童クラブを含めると市内30箇所程度で配本を行っているが、ネットワークシステムが導入されていないので施設に配置されている本を昔ながらの貸出カードで貸出をしている。

**松本委員** リクエストで受け取ることはできるか。

**図書館長** リクエストでは受け取れない。

**益田委員** 配本施設の管理は誰が行っているのか。

**図書館長** 公共施設では市職員が管理している。

**宮崎委員長** 自動車文庫を継続するのであればPR方法等を考える必要がある。上府中、豊川、片浦、曾我の図書館分館については廃止の方向で進めていくことになる。

#### オ 「白秋童謡100年」事業について【資料5】

事務局から資料5に基づいて事業概要を説明した後、質疑応答を行った。

**大塚委員** 図書館と直接関係があるか分からないが、市は映画「地上の星 二宮金次郎伝」をバックアップしているようで市内各所にチラシが配布されているが、白秋映画のPR等の支援に関わらないのか。

**図書館長** 小田原ゆかりの2つの映画製作が進められているが、「地上の星 二宮金次郎伝」は小田原市が参画している二宮尊徳の協議会から製作をお願いしたものである。将来に渡って二宮尊徳の生涯を伝え広める目的で製作前の段階から小田原市が関わっている経緯がある。もう1つの映画は「この道」というタイトルで北原白秋と山田耕筰との友情や関東大震災を経て音楽の力で再生していく人々の姿を描いたものである。大森南朋さん、EXILEのAKIRAさん、羽田美智子さんなど有名な俳優の方が出演されており、新春に公開される予定である。北原白秋を取り上げた映画であるので白秋と小田原との関わりを広める良い機会であるが、市民の方々が映画を応援する組織を立ち上げるといった話を聞いている。

**文化部副部長** 映画は制作会社を中心に進めており、編集段階であると思う。市にも応援をお願いしたいといった話もあるが、協力内容などを検討していく必要がある。民間の動きであるが、8月22日に映画の応援イベントを小田原市民会館で行うという話もあり、市としての関わり方を検討しているところである。

**勝又委員** 小学校の授業で尊徳記念館を見学しているので白秋童謡館も見学してもらおうと北原白秋を知ってもらう機会になると思う。

**図書館長** 夏休みに家族で白秋童謡館を見学してもらえよう呼びかけるが、学校にも機会を

捉えてご意見を伝えさせていただきたい。

**管理係長** 現在、市内の小・中学生を対象に小田原文学館、白秋童謡館の無料招待券を配布する準備をしているところである。

**宮崎委員長** 7月27日に白秋童謡館の再オープンが予定されており、記念イベントも行われるので多くの皆さんに参加いただきたいと思う。

### 3 協議事項

#### 小田原市図書館の運営方針（案）等について 【資料6】

事務局から資料6に基づいて事業概要を説明した後、質疑応答を行った。

**益田委員** （仮称）小田原駅東口図書館の図書の選書はどのように行うのか。

**図書館長** 指定管理者を導入した場合は通常業務として選書は指定管理者が行うことになるが、実際には図書館と指定管理者の間で選書会議といった連絡調整の機会を設けて行ってまいりたい。事務的な事は指定管理者に担ってもらうことになる。

**益田委員** 図書館ごとに別々に選書するという理解で良いか。

**図書館長** 選書の方法としては選書会議的な機会を設けて対応してまいりたい。

**宮崎委員長** 大きな問題だと思うが、いかに連携していくかが大事だと思う。図書館の運営が指定管理者と市直営に分かれることで選書も別に行うという回答だと思う。

**図書館長** 最初に選書の方針をしっかりと示す必要がある。現在、図書館では新鮮な図書をいち早く提供するというスピード面で難しいところがある。しかし、人気がある本を数多く購入することを求めているものでもない。

今後、図書館協議会の皆さんの意見も聞きながら指定管理者の仕様書を作成する中で選書方法なども丁寧に定めていくが、スピード面の問題も考慮しながら指定管理者に選書の自由度をどこまで持たせるかが課題である。また、小田原市では入札制度により図書を購入しているが、こうした行政の仕組みによる購入手続きは時間がかかるので、こうした点で指定管理のメリットがあると考えられる。

**宮崎委員長** 新しいことが取入れられることもあるという話である。

**松本委員** ある自治体では指定管理の事業者が2つあると、同じ自治体にもかかわらず、資料収集がバラバラに行われて調整がされないことがある。自治体の図書館であるので最終的には収集方針でしぼりかけるといった話があったが、実際には収集方針で何を買わないかについては、ある程度はコントロールできるかもしれない。

しかし、具体的な選書でどういった図書を自治体全体として揃えていくかということ収集方針や文書だけでしぼることは難しい印象を持っている。指定管理の場合も図書収集は直営部門が一括して行う自治体もあるので工夫が考えられると思う。

**宮崎委員長** 指定管理者に選書を任せる場合は仕様書の記載内容が重要になる。また、指定管理者に任せて実践されるのかということ議論する必要があると思う。

**野口副委員長** (仮称) 小田原駅東口図書館の運営等に「市民等の高い満足度を得るために民間事業者による運営」と記載されているが、この観点は直営でも必要なことで市民の高い満足度を得るために民間事業者、指定管理者ということが狙いになると、直営は目指さなくていいのかとも読めるので違和感がある。市民等の満足度は直営でも指定管理者でも目指すものである。書き方の問題かもしれないが、先ほど、図書館長がスピード面のことを説明されたように具体的で分かりやすい表現にしたほうが良いと思う。

また、実務的な話であるが、子育て支援施設も指定管理であるとする、事業者間の連携という、どのような仕組をイメージしているのか。

**図書館長** 子育て支援施設についても指定管理を導入する方向であるが、それぞれが別に契約する考え方もある。図書館としてはそれぞれの企業が共同で施設運営に携わる共同企業体が連携しやすい仕組ではないかと提案しているところであるが、市役所内で合意に至っているものではない。

**松本委員** 私は指定管理に反対である。野口副委員長のご指摘のとおり「高い満足度を得るため」という言葉には違和感がある。また、「経費削減の効果」と記載されているが指定管理で本当に期待できるのか、経費を削減しようと思えば安くできるが、それ相応のサービスになってしまう。「高い専門性」は小田原市が発揮する部分であり、運営方針という重要な文章の中に具体的な指定管理や業務委託といった言葉を入れることが適当かどうかとも疑問に思う。

**図書館長** 運営方針の中に運営等という項目を設けることや、指定管理者を導入する場合は条例に定める必要はあるが、運営方針に指定管理という言葉を入れることは検討させていただきたい。指定管理の目的は経費削減というよりは行政のルールの中で難しいところを指定管理でより良い状態にすることと考えている。経費削減は行政の一番の課題ではあるが、内容として行政で取り組みにくいところを指定管理で行うことと思っている。

**宮崎委員長** 3の運営等の項目を重要視して記載内容を修正してもらいたい。行政が指定管理者に任せたいことを勘案して記載内容を検討していただきたい。

**文化部副部長** 3の運営等の項目は委員の皆様のご意見をもとに検討、修正させてもらいたい。この運営方針は市として政策会議等で決定しているものでなく、図書館協議会の皆様のご意見を聞いた上で、今後、最終的な市の方針が決まっていくことをご理解いただきたい。

また、指定管理を導入するとなると図書館長が説明したとおりスピード感や行政では取り組みにくいことや、参加費を負担してもらおう事業等の実施も考えられるが、指定管理者に業務を任せすぎて勝手に本を購入して問題になったケースもあるので選書の仕方や収集方針なども作成していかなければならない。

いずれにしても(仮称)小田原駅東口図書館は駅前という立地から、これまで図書

館に縁遠かった学生や主婦の方などにも利用してもらえる図書館を目指していきたいと考えている。今後も皆様方のご意見を聞かせていただければと思っている。

**大塚委員** 市では99%程度の確率で直営でなく、指定管理にシフトする方向か。

**文化部副部長** 現在、(仮称)小田原駅東口図書館は指定管理を導入する方向を探っているが、まだ決定したことではない。

**深田委員** この運営方針は今後も継続していくものと理解して良いか。

**図書館長** 基本理念、基本方針は長期的な位置付けのもの、運営方針は中期的な位置付けのもの、そして短期的な事業計画を持つものと考えている。運営方針は指定管理者を募集する際に示すものであるため、指定管理の導入や更新の際には必ず見直すことになるので概ね5年ごとの見直しを考えている。

図書館本来の役目として基本方針があり、社会の要請に従って運営方針を作成するものと考えており、いつまでというものでないことをご理解いただきたい。

**深田委員** 運営方針と指定管理は別のことと思うが、運営方針に指定管理のことが記載されていると両者一体となっている感じがする。

**文化部副部長** 野口副委員長や松本委員のご指摘と同様のご意見と思うが、3の運営等の項目の記載内容は精査させていただきたい。また、運営方針が運営の仕方にすり替わっていると感じたので次回までに考え直したい。後ほど説明させてもらうが、本日の協議会で言い足りないことは意見書等でお寄せいただきたい。

**図書館長** 今回、特にご意見をお聞きしたいことは2の「特徴的な機能」である。本来は、それぞれの図書館の一般的な機能を記載すべきであるが、あえて差異を出して総合的な図書館行政を担っていく中央図書館としてのかもめ図書館、また、小田原駅前に設置されることによる役割を明らかにした上での東口図書館の特徴的な機能を記載している。

**松本委員** 私たちも、それぞれの図書館のやるべきことが網羅されているか否かは分からない。例えば、具体的なデータや図書館以外の政策、地域的な状況などの情報等があれば記載内容に納得できるが、なかなか文言だけで判断することは難しい。また、この運営方針はいつ頃までに策定するのかと、策定された方針は公開されるのかを伺いたい。

**図書館長** 運営方針は公開する予定である。(仮称)小田原駅東口図書館は開館していないが、運営方針はできるだけ今年度中に策定したいと考えている。指定管理者の導入を検討する中で考え方を示せないといけないので成文化して公表することは先のことだとしても議論していかなければならないと考えている。

**松本委員** 図書館長から運営方針の下に具体的な計画を位置付けるという話があったが、運営方針と具体の事業計画を切り分けたほうが良い。運営方針は運営の方向性や考え方といったレベルで良いと思う。東口図書館の機能の中に英語による絵本の読み聞かせといった具体的な記載があるが、具体的に記載すると、実際に英語による絵本の読み聞

かせを行うと思われる。

**宮崎委員長** 子育て支援施設は登録制であり、図書館はフリーで利用できる施設である。両施設のあいだで何が連携できるかを専門の方や市民ユーザーの声も聞いて精査、検討していただきたい。

**野口副委員長** (仮称) 小田原駅東口図書館の機能の中で次世代育成として子育て支援施設との連携が柱として位置付けられている書き方であることは分るが、市立図書館ではヤングアダルトコーナーにも力を入れていると思う。読書離れとなるヤングアダルト、中高生といった世代へのサービスは(2)「次世代育成」なのか、(1)の「若年層の学習等の活動支援」に位置付けられるのかを伺いたい。

**図書館長** 読書離れとなるヤングアダルト、中高生といった世代は、(1)「図書館利用者の拡大・利便性の向上」の中の若年層の学習等の活動支援に位置づけている。小田原駅の利用者である高校生、大学生等の若年層の読書に関する実態が見えないところがある。小中学生の読書は学校を通しての把握や学校図書館との連携で読書活動の充実に取組めるが、ティーンズの読書実態の把握が難しくなっているので、これらの世代については(1)の図書館利用者の拡大に位置づけている。

なお、(2)「次世代育成」は東口図書館の形状から子育て支援施設と隣り合っているとところに乳幼児、初めて子どもを育てていくといった保護者の方を対象にしたコーナーを設置する予定である。

先日、図書館での自習活動の善し悪しに関する新聞記事が出ていたが、(仮称)小田原駅東口図書館はともかく足を運んでくれる場所にしたいと考えている。

**野口副委員長** 基本方針があり、運営方針の下に事業計画と、より具体化していく流れであるが、基本方針は何度か議論して調整が図れている。この基本方針の6項目をそれぞれの図書館の特徴的な機能に落とし込んだ時にどの項目がどの機能に対応しているのか、1対1である必要はないが、対応関係を意識して明確に分るような形で提示してもらえればと思う。市民に公開した時に基本方針を踏まえた運営方針であることが分ればより明確に伝わる気がするので手を入れてもらおうと良いと思う。

**図書館長** 今回、図書館協議会で初めて運営方針を提示して議論いただいているが、委員の皆さんのご意見をもとに運営方針を練り直してまいりたい。

**宮崎委員長** 本日の議論を踏まえて、市民に分かりやすい運営方針を作成してもらいたい。

#### 4 その他

**図書館長** 第33期図書館協議会の市民委員の募集は「広報おだわら」7月号でお知らせし、7月31日(火)までの募集期間である。実際には9月に教育委員会の承認を得て10月から新メンバーでスタートする。その間、少し時間があるので現図書館協議会委員の皆様にご相談させてもらうこともあるかもしれないのでご協力をお願いしたい。

次に、白秋童謡100年の関係であるが、この度、ボニージャックスと、その後継グループであるベイビー・ブーの2グループから「小田原市の童謡大使として活動したい」との申し出をいただいた。この2グループの協力をいただき、全国に小田原が北原白秋ゆかりの童謡のまちであることをPRしてまいりたい。

この童謡大使の件については、6月11日に市議会に報告し、その後、報道機関にも情報提供し、6月29日に童謡大使の委嘱式を行う予定である。

最後に第32期の図書館協議会の皆様には図書館運営の変革期に当たったことから種々多大なご協力をいただいたことにお礼を申し上げる。

**宮崎委員長** 私は、かもめ図書館の建設当時から関わっているので多くのことを経験させていただいてきたが、協議会の仕事は10年程度携わらせていただいた。今後とも、協議会では図書館運営について活発な議論をしていかなければならないと思う。行政は真摯に取り組んでいるが、私たち市民も行政と一緒に図書館運営に協力してまいりたい。皆様のご協力に深く感謝を申し上げて本日の協議会を終わらせていただきたい。